

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1(特別支援学校)

| 達成度(評価) | |
|---------|---------------|
| A | : 十分達成できている |
| B | : おおむね達成できている |
| C | : やや不十分である |
| D | : 不十分である |

| | |
|------------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>・保護者アンケート(4段階評価)では、すべての項目で平均3.5以上の評価であり、特に、「お子様を本校に通わせてよかったと思うか」という問いに対しては、平均3.9(「そう思う」(89.7%)「少し思う」(9.4%))であった。これは、子どもの主体的な学びと育ちを支援する学校生活づくりを目指す本校の教育に関し、ご理解を得ていることと受け止められる。</p> <p>・職員アンケート(4段階評価)では、朝の登校での挨拶の励みや緊急事態を想定した各種訓練の実施、新型コロナウイルス感染症への対応についての自己評価は高く、研究主題の視点での授業実践や働き方改革の推進についての自己評価は低い結果であった。特に、「教職員の働き方改革の推進」については、アンケートの平均が2.6で、働き方改革を意識した業務の効率化と改善は未だ十分とは言えない。</p> <p>・こうした結果を踏まえ、次年度は、育成を目指す資質・能力の3つの柱について、更に研究を深め子どもの主体的な学びを意識した教育を、引き続き実践していくことが大切である。そのためには、カリキュラム・マネジメントの必要性和新学習指導要領の内容を十分に理解し、授業づくりの活性化を図る必要がある。一方で、働き方改革の観点から個別の指導計画の様式の改訂を行ってきたが、来年度は、会議の縮減や書類作成の改善等による業務軽減を更に推進していく必要がある。</p> |
|------------------|---|

| | |
|----------|---|
| 2 学校教育目標 | 児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をばぐむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。 |
|----------|---|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <p>○子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。</p> <p>○子どもが今日の学校生活を「自分から」「自分で」取り組み、「やりがい」「手ごたえ」を感じ、「精一杯」「存分に」活動し、「充実感」「満足感」に浸ることができる学校をつくる。</p> |
|------------|--|

| | | |
|---------------|------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|

| (1) 共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|--|--|---|---------|---|---------|---|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 | ○個別の指導計画作成に当たり、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上。 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に十分に生かすことができていると回答する職員の割合60%以上。 | ・一人一人のニーズを多角的に検討するために、担任に加え級外が読み合わせに参加できるように計画する。 ・個別の指導計画の学級での読み合わせの時間が取れるよう、時間の設定を行う。 | B | ・前期・後期の読み合わせで、各グループ1～2回級外の職員が入り、読み合わせを深めることができた。 ・読み合わせの視点なども伝え、前期・後期各3日間の読み合わせを実施した。 | A | ・学校評価アンケートで、個別の指導計画作成に当たり、十分な相談や説明があったと回答する保護者は8割を超えていた。(「4」「3」の回答の割合98%) ・個別の指導計画を適切な指導・支援に生かすことができていると回答した職員は7割を超えていた。(「4」「3」の回答の割合93%) | A | ・個別の指導計画作成に当たり、保護者への十分な相談や説明がある良いと思う。 ・保護者アンケートの回収率はすごいと思うが、回収できていない保護者の意見聴取もできる限り行ってほしい。 |
| | ◎子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくりのさらなる充実 | ○学校の満足度に関する項目についての保護者の評価の平均3.9以上。 ○職員研修会の実施 年間3回以上。 | ・「育成を目指す資質・能力の3つの柱」についての職員研修会により共通理解を図り、授業実践に活かす。 | B | ・保護者の評価は現時点では分からないが、講演会を2回実施し10月を12月に予定している。研修を積み重ねて共通理解を図り、よりよい授業を目指して取り組むことにつながっている。 | B | 職員対象の研修会は予定通り実施し授業実践に活かすことにつながっているが、職員の専門性向上には幅があり、生徒の姿を通じて保護者に理解してもらうまでの達成度まではいけなかった。(学校の満足度に関する評価平均3.8) | A | ・コロナ禍により、ズーム等のリモート研修となっているケースが多く、また研究の成果を教育活動に速やかに反映することは難しいと思うが、良くやれているのではないかと。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動・場面の設定、学期に2回以上。 | ・生活単元学習や作業学習等において、自分の役割を果たす活動を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、就業・施設体験や販売学習等を実施する。 | A | ・個別の指導計画に個々の児童生徒の役割を果たす活動を盛り込み、学習活動を行うことができた。 ・コロナ禍の中で制約はあるものの、感染症対策を行いながら、就業・施設体験や学校祭を実施できた。 | A | ・年間を通して個々の児童生徒の役割を果たす活動を盛り込んだ学習活動を行うことができた。 ・コロナ禍による様々な制約はあったが、感染症対策を行いながら、就業・施設体験や学校祭等のコミュニケーション力を育成する行事を可能な限り実施することができた。 | A | ・コロナ禍の中、行事日程や内容の制限がある中で、行事や活動を実施されていた。また、感染症対策も評価できる。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合90%以上 | ・月に1回以上、児童生徒のトラブルやいじめに関する報告・連絡・相談の機会を設ける。 ・いじめに関する職員研修を年間1回以上実施する。 | A | ・毎月報告するいじめ問題に係る覚知・認知件数について、分掌部会等で確認した。今のところ大きな問題は発生していないが、今後も情報を共有し、問題の早期解決に努める。 | A | ・毎月県に報告するいじめ問題に係る覚知・認知件数について、分掌部会等で確認した。また、年2回実施される体罰・いじめアンケートを通して、問題の早期発見と早期解決に努めた。(学校評価アンケート「4」「3」の評価割合96.4%) | A | ・以前にも増して、いじめ等に関しては報告等が大変となり、気が休まらないところもあると思うが、今後も変わることなく、いじめの早期発見、早期対応をお願いしたい。 |
| | ○明るく楽しい学校づくり | ○挨拶や明るい学校づくりに関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。 | ・児童生徒や保護者・職員同士で積極的な挨拶や声かけを行い、明るく楽しい学校づくりに努める。 | B | ・職員に児童生徒及び保護者に対して、笑顔で挨拶を行うことを呼びかけ、明るく学校づくりに関する意識を喚起した。職員の児童生徒への言葉遣いについては、まだまだ改善の余地がある。 | A | ・職員に児童生徒及び保護者に対して、笑顔で挨拶を行うことを呼びかけ、明るく学校づくりに関する意識を喚起した。職員の児童生徒への言葉遣いについては、まだまだ改善の余地がある。 | A | ・常に感情をコントロールして平常心を保つことは難しいと思うが、自分たちが来訪した際は常に、職員の方から明るい挨拶をしていただいている。 |
| ●健康・体づくり | ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 | ・学期ごとに、交通安全指導や通学路点検を行う。単独通学生に対しては、毎月通学指導を行う。 ・保護者に対して、送迎時の安全運転及び校内徐行運転を呼び掛ける。 | A | ・毎月月初めに、単独通学生対象の交通安全指導や通学路の安全確認を実施した。 ・校内を通行する車に対し、標識の工夫や立ち番等で徐行運転を心掛けるよう働きかけた。 | A | ・毎月第一金曜日の昼休みに、単独通学生対象の交通安全指導を実施して通学マナーについて考えた。また各学期初めに、交通安全指導や通学路点検を実施した。 ・校内を通行する車に対し、標識の工夫や立ち番等で徐行運転を心掛けるよう働きかけた。 | A | ・時々校外で本校の児童生徒を見かけるが、安全に登下校できている。日々の指導の賜だと思う。 |
| | ○感染症拡大防止に係る取組の充実 | ○感染症拡大防止に係る取組に関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。 | ・新型コロナウイルス感染症や各種感染症に対する安全衛生について適切な指導・情報発信を行う。 ・手指消毒用アルコールスタンドの増設や、手洗い・三密の回避等についての児童生徒への指導を適切に行う。 | A | ・保護者への文書配布やメッセージによる配信を複数回行い安全衛生に関する情報提供、感染拡大予防の依頼を行った。職員にも朝礼を通じて周知を行った。 ・アルコールスタンドを使い勝手の良い位置に増設した。 | A | ・保護者のアンケート結果は3.7 職員のアンケート結果は3.6と当初の目標に職員の結果が0.1及ばなかったが、いずれも昨年度よりも評価は増した。 ・また、校内で陽性者は出たものの、感染の広がりは、ほぼ見られなかった。 ・感染拡大防止に必要な対応はできていたと思われる。 | A | ・県内の感染状況に常に気を配り、学校の感染防止に努めていたと思う。 |
| ●地域支援 | ●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実 | ○地域支援に関する項目についての職員の評価の平均3.6以上。 | ・地域支援の状況について集約した内容を年2回、職員に情報提供することで職員の地域支援に関する共通理解とセンター的機能に関する意識向上を図る。 ・地域の学校や保護者、福祉、医療、労働、行政機関等との適切な連携の下、情報の共有化を図りながら相談業務を行う。 | B | ・地域支援として年間を通して実施している内容7項目と令和元年度から2年度までの年間活動実績を紹介した。今年度の活動実績も上半期までを集約し、情報提供によるセンター的機能の意識付けとした。 ・また、コロナ禍の影響はあるが、できることから関係機関との連携を進めている。 | B | ・センター的機能を有効に発揮するための校内体制の整備において学校組織としての対応に不十分が見られ、教職員の意識付けが弱い状況に留まった。 ・コロナ禍の中、地域のニーズに応じて児童生徒への教育的支援を進めていくことができた。今後も引き続き更なる専門性の向上を図り、地域のニーズの把握や関係機関とのネットワークの構築・拡大も行っていく。 | A | ・地域のニーズや地域貢献できることを適切に把握することが必要である。また、地域の学校や保護者、各関係機関とも情報の共有をお願いしたい。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日・定時退勤推進日の設定で職員の意識改革を図り、パーソナルタイムの設定により個人の業務時間を確保する。 ・効率的な会議の実施、会議・研修会の精選を図るとともに、ICTを活用した業務の効率化を推進する。 | B | ・毎月2回(11月末までに12回)の定時退勤日を設定し、定時退勤の呼びかけを行ったが、まだ徹底できていない状況である。 ・効率的な会議の実施・運営についての職員研修を行い、会議・研修会の精選を行った。また、資料のペーパーレス化を行い、業務の効率化を行った。 | B | ・今年度は全部で17回の定時退勤日を設定して定時退勤を呼びかけたが、徹底できなかった。 ・年間を通して効率的な会議・研修会の実施や精選に努めた結果、若干ではあるが個々の業務時間の確保につながった。アンケート結果も昨年比で0.3ポイント向上し、業務の効率化に対する職員の意識がやや高まった。 | B | ・働き方改革は世の中の流れである。児童生徒への対応、書類作成等業務は大変だと思うが、定時退勤や休暇がしっかりと取れるようにしてほしい。 |

| (2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------------------|------------------|--|--|---------|--|---------|---|---------|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○進路指導 | ○一人一人に即した進路指導の充実 | ○児童生徒及び保護者のニーズに応じた進路指導に関する項目についての保護者の評価の平均3.6以上。 | ・個々の児童生徒のキャリアや将来の見通しについての関係者による検討を随時実施し、情報共有を図る。 ・児童生徒や保護者への適切な進路情報の提供を随時行う。 ・地域における事業所開拓を充実させる。 | B | ・生徒の状況に応じて、随時ケース会議等を持ちながら情報共有を行っている。 ・保護者の希望に応じて事業所の見学を行い、夏休みには学校で各事業所の合同説明会を実施した。 ・一般企業も含め、新規の体験先を開拓している。 | A | ・担任の進路指導について、保護者アンケートの結果は平均3.6であり、数値目標は達成できている。 ・保護者向けの学習会を定期的に実施し、卒業後の進路に向けた情報提供を行うことができた。 ・県の就労支援コーディネーターと連携するなど、就業・施設体験の体験先を開拓できた。 | B | ・学校や生徒のことを地域にPRすることが大切である。マスクを上手に利用してほしい。 |

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・保護者アンケート(4段階評価)では、すべての項目で平均3.6以上の評価であり、特に、「学力の向上」と「総合」の項目については、いずれも平均3.8の高評価を得ることができた。このことから、本校の目指す「子どもの主体的な学びと育ちを支援する学校生活づくり」については、十分理解と満足をしていただいていることがうかがえる。今年度の重点目標のうち、「子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。」について、おおむね達成できたものと考えられる。</p> <p>・職員アンケート(4段階評価)では、「健康・体づくり」(新型コロナウイルス感染症や各種感染症に対する安全衛生の対応)及び「業務改善・働き方改革」の項目についての自己評価で、昨年度比+0.3ポイントの顕著な向上が見られたことから、それぞれについて、職員の意識が高まったことがうかがえる。特に、業務改善については、会議の精選や書類作成の簡略化等を進めることができ、職員の意識向上につながったものと考えられる。</p> <p>・次年度に向けた課題としては、完成年度を迎える「育成を目指す資質・能力の3つの柱を視点とした、子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業」についての研究をさらに推し進めるとともに、日常の生きた授業実践の中に位置づけていく必要がある。また、さらなる業務改善や行事の精選、事務作業の合理化等により、職員の時間外勤務の縮減を図る必要がある。</p> |
|----------------|--|